

世界標準債券ファンド（1年決算型） 〈愛称 ニューサミット（1年決算型）〉

運用報告書（全体版）

第10期（決算日 2024年7月17日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「世界標準債券ファンド（1年決算型）」は、2024年7月17日に第10期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2014年6月2日から2029年7月17日までです。
運用方針	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<642363>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 騰 落 中 率				
	円		円		%	%	百万円	
6期(2020年7月17日)	8,922		0	△0.3	—	97.0	319	
7期(2021年7月19日)	9,816		0	10.0	—	97.0	311	
8期(2022年7月19日)	11,284		0	15.0	—	97.1	319	
9期(2023年7月18日)	12,741		0	12.9	—	97.0	273	
10期(2024年7月17日)	13,998		0	9.9	0.1	97.0	283	

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 券 率
		騰 落	率			
(期 首)	円		%		%	%
2023年7月18日	12,741		—	—	—	97.0
7月末	12,738		△0.0	—	—	96.9
8月末	12,980		1.9	—	—	97.0
9月末	12,623		△0.9	—	—	96.8
10月末	12,213		△4.1	—	—	96.9
11月末	13,091		2.7	—	—	96.8
12月末	13,035		2.3	—	—	96.8
2024年1月末	13,195		3.6	—	—	96.9
2月末	13,509		6.0	—	—	96.8
3月末	13,714		7.6	—	—	96.8
4月末	13,544		6.3	0.1	—	97.0
5月末	13,788		8.2	0.1	—	96.7
6月末	13,728		7.7	0.1	—	96.9
(期 末)						
2024年7月17日	13,998		9.9	0.1	—	97.0

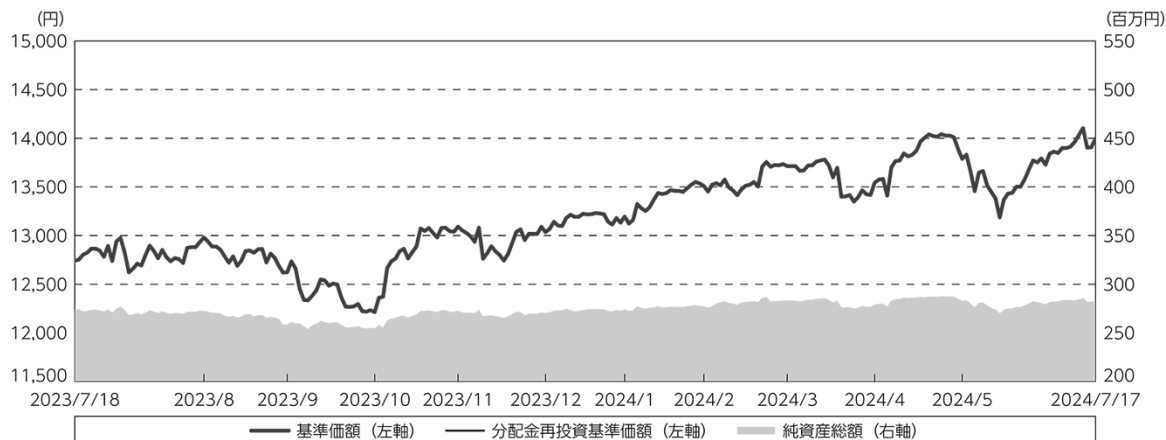
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2023年7月19日～2024年7月17日）

期中の基準価額等の推移



- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）分配金再投資基準価額は、期首（2023年7月18日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞

- ・利回りの高い現地通貨建て債券への投資によるインカム収入を得たこと。
- ・オーストラリアドル、メキシコペソ、インドネシアルピアが対円で上昇したこと。

＜値下がり要因＞

- ・2024年第1四半期に金利が世界的に上昇したこと。
- ・オーストラリアの準政府債のスプレッド（利回り格差）が拡大したこと。

投資環境

（海外債券市況）

2022年末にかけて市場のボラティリティ（変動性）が急上昇した後、2023年序盤にリスクセンチメントが回復すると、株式および債券市場はともに上昇しました。しかしながら、投資家の強気のセンチメントは長続きせず、債券相場の上昇も続きませんでした。米国の非農業部門雇用者数が予想を上回り、先進国のインフレ率が高止まりしたことで、世界の債券利回りは上昇（債券価格は下落）し、アメリカドルも上昇しました。夏季になると、市場参加者の間で「高金利の長期化」というテーマが織り込まれ始め、近クリセッション（景気後退）に陥るリスクが大きく低下する中、債券利回りは再び全般的に大きく上昇しました。主要国の労働市場は非常に逼迫した状態が続き、原油価格は上昇傾向を維持したことから、当面のディスインフレ傾向は勢いを失う可能性が示唆されました。米国と欧州諸国の間における経済活動状況の乖離がアメリカドルの明確な上昇につながり、この頃の為替市場の主なテーマとなりました。これに加えて、世界の債券利回りが上昇したことから、世界の金融市場の他の部分に圧力がもたらされ、クレジット市場や新興国市場にも緊張が広がりました。米国における好調な経済活動と、緩やかに減速しているインフレが引き続き市場価格に影響を及ぼし、米国国債10年物の利回りは2023年10月に4.9%に達しました。こうした動向を受けて、市場では米国連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中央銀行（ECB）が共に政策金利を現在の水準で長期間維持するとの見方が広がりました。

その後、ソフトランディング（経済の軟着陸）のテーマが再浮上したことやFRBを中心として中央銀行がハト派（金融緩和的な政策を支持）的な姿勢を示したことを受けて、市場のセンチメントはポジティブなものとなりました。投資家の間では各国中央銀行の利上げサイクルが終結したとの見方から、FRBがハト派的な姿勢に転じるとの観測が強まりました。2023年11月に開催された米国連邦公開市場委員会（FOMC）会合では、金融環境が大幅に引き締められたことが改めて示されました。12月には、FRBが予想外に政策に関する姿勢を転換したことを受けて、積極的な引き締めサイクルの終了や利下げ開始の可能性を示唆していると解釈され、市場センチメントは引き続き良好となり、債券および株式市場の両方が上昇しました。

2024年第1四半期は、米国とユーロ圏の経済が堅調となったことが金融政策と金利水準に影響しました。1月に発表された2023年第4四半期の米国国内総生産（GDP）成長率（速報値）が年率換算で前期比3.3%に上昇したことを受けて、米国国債利回りは上昇し、為替市場ではアメリカドル高となりました。2月に入っても、米国とユーロ圏のサービス部門の回復が顕著だったこともあり、米国国債利回りは上昇しました。ユーロ圏は、好調な消費、堅固な労働市場、インフレ率の低下により、製造業の売上が拡大し、経済が堅調であることを示しました。FRBは金融政策に変更を加えませんでした。インフレ率が目標である2%近くまで低下すれば金融緩和策を採用する可能性を示唆しました。ECBは高い金利水準を維持し、現在の金利水準でインフレ率の目標を達成できるとの見方を示しつつ、6月のデータを待ってから調整するかどうかを決定するしました。

第2四半期になると、世界各国において金融緩和と政策への転換が起こりました。6月までに、多くの中央銀行が利下げに焦点を当てるようになりました。ECBは現在の金利サイクルにおける初の利下げを実施しました。カナダ銀行（中央銀行）も利下げを実施しました。米国では、FRBが第2四半期の利下げを見送ったものの、6月に発表された5月の消費者物価は、コアCPI（食料品とエネルギーを除いたCPI）上昇率が鈍化し、FRBが近々利下げを実施するとの期待が大きく高まりました。米国の経済成長は減速の兆しを見せ、第1四半期のGDP成長率（確報値）は年率換算で前期比1.4%と前期の成長率と比べて低下しました。一方、ユーロ圏の経済成長を表す指標の方向性はまちまちとなりました。

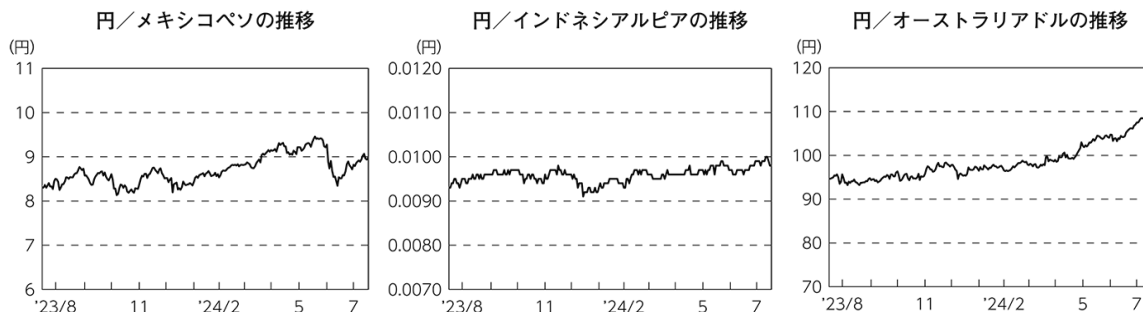
（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.05%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続いたものの、2024年3月の金融政策決定会合においてマイナス金利政策の解除が決定されたことから、0.08%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.15%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続いたものの、2024年3月にはマイナス金利政策の解除が決定されたことから、0.02%近辺で期間末を迎えました。

（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

メキシコペソについては、選挙後の政治リスクが高くなることを考慮してポジションを縮小しましたが、中期的には、力強いファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）、制度面で支えられていること、高い実質利回りなどの要因により、為替・債券市場のいずれでも堅調なパフォーマンスを上げると考えられることから、引き続き投資対象通貨の中で高い保有比率を維持しました。

インドネシアルピアについては、ポジションをやや拡大させました。米国の大統領選挙が控えており、世界的に長期金利が大きく変動する可能性があることから、ボラティリティが低いインドネシアルピアの保有比率を高く維持しました。

オーストラリアドルについては、基本的にポジションを維持しました。オーストラリア準備銀行（RBA）が予想以上にタカ派（金融引き締めの政策を支持）的な姿勢を貫いていることを受けて、オーストラリアドルが強含んでおり、金利上昇の圧力が生じています。準国債のスプレッドも若干拡大しており、ファンド全体の利回りを押し上げてファンドのパフォーマンスに今後寄与することになると考えます。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第10期
	2023年7月19日～ 2024年7月17日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,510

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

メキシコ：2024年6月に実施された総選挙では、シェインバウム氏が大統領選挙に勝利すると市場予想は的中しましたが、予想以上の大差がついたこと、および議会選挙において国家再生運動（MORENA）をはじめとする与党連合が大勝した結果が政策リスクを高め、市場の見通しに影響を与えました。シェインバウム氏のスピーチは、政策の継続性、慎重な財政政策、中央銀行の独立性、重要な経済問題に対して建設的なアプローチを採用することを強調したものであり、市場に友好的な内容でした。しかし、改革アジェンダ（行動計画）の不透明感や、物議を醸しそうな法案の可能性によって市場のボラティリティが高まっています。経済活

動に関しては、2024年第1四半期の実質GDPは減速傾向を確認する結果となりました。インフレ率に関しては、貿易財の価格低下によってコアインフレ率が低下していますが、選挙後にメキシコペソ安になっており、コアインフレ率に上振れリスクが生じています。

インドネシア：2024年2月に実施された大統領選挙では、プラボウォ氏が過半数を獲得し、インドネシアの次期大統領に選出されました。プラボウォ氏は、インフラ整備の継続など、ジョコ現大統領の改革を継続することを強調しています。しかし、EV（電気自動車）用のニッケルバッテリーの需要は世界的に鈍化しており、国内の二酸化炭素排出量の削減や一部国有企業（SOE）の再編といった容易ではない課題が予想されます。最大の課題は、安定したマクロ経済を維持しながら財政赤字をコントロール可能な水準に維持することだと考えられます。選挙後の経済成長は、財政政策の積極化、選挙関連の不確実性が払拭されたことによる海外からの直接投資の実現、稼働率の上昇、与信額の増加が牽引役になる可能性が高く、さらにインドネシア中央銀行による金融緩和によって押し上げられる可能性があります。

オーストラリア：オーストラリア経済は、供給と生産性の問題が根強く残り、需要の低迷が続いています。新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックとその対策として打ち出された一連の政策は、供給サイドの混乱を長期化させており、回復は遅れています。RBAの採用した金融引き締め政策は緩やかなものだったため、需要を急速に抑制できませんでした。経済成長は依然として低迷しており、2024年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比+1.1%と、低い伸び率にとどまりました。政府によるエネルギー関連の補助金により、2024年後半から総合インフレ率が低下すると予想されますが、その後は上昇に転じると考えられます。

当ファンドでは、インフレ率に対して金利が高く実質的なインカムの創出が高水準である市場、通貨のバリュエーション（価値評価）が魅力的な水準にあり長期的に上昇が見込まれる市場、構造改革に下支えされた長期的な成長ポテンシャルがある市場、制度的な信頼が強固である市場に着目し、引き続き積極的に新規投資機会を追求していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○1万口当たりの費用明細

（2023年7月19日～2024年7月17日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	150	1.141	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 52 ）	（ 0.395 ）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 94 ）	（ 0.713 ）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 4 ）	（ 0.033 ）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	13	0.100	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 1 ）	（ 0.004 ）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	（ 13 ）	（ 0.096 ）	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	163	1.241	
期中の平均基準価額は、13,179円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

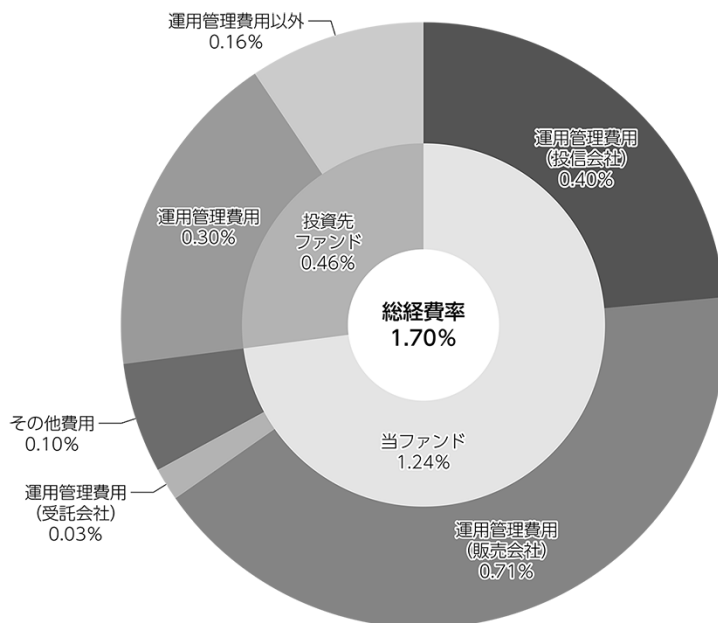
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.70
①当ファンドの費用の比率	1.24
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.30
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.16

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年7月19日～2024年7月17日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA	千口 111,985	千円 45,466	千口 102,257	千円 41,789

(注) 金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口 48	千円 48	千口 39	千円 39

○利害関係人との取引状況等

(2023年7月19日～2024年7月17日)

利害関係人との取引状況

＜世界標準債券ファンド（1年決算型）＞

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
投資信託証券	百万円 45	百万円 45	% 100.0	百万円 41	百万円 41	% 100.0

＜マネー・アカウント・マザーファンド＞

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2023年7月19日～2024年7月17日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

（2023年7月19日～2024年7月17日）

該当事項はございません。

○組入資産の明細

（2024年7月17日現在）

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	期首(前期末)	当 期		末
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		千口	千口	千円	%
ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA		650,421	660,149	275,216	97.0
合 計		650,421	660,149	275,216	97.0

（注）比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期		末
		口 数	口 数	評 価 額	
		千口	千口	千円	
マネー・アカウント・マザーファンド		268	277	277	

（注）親投資信託の2024年7月17日現在の受益権総口数は、455,394千口です。

○投資信託財産の構成

（2024年7月17日現在）

項 目	当 期		末
	評 価 額	評 価 額	比 率
	千円	千円	%
投資信託受益証券	275,216	277	96.3
マネー・アカウント・マザーファンド	277	277	0.1
コール・ローン等、その他	10,191	10,191	3.6
投資信託財産総額	285,684	285,684	100.0

（注）比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2024年7月17日現在）

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	285,684,980	
コール・ローン等	10,190,758	
投資信託受益証券(評価額)	275,216,220	
マネー・アカウント・マザーファンド(評価額)	277,979	
未収利息	23	
(B) 負債	1,864,220	
未払解約金	4,489	
未払信託報酬	1,592,820	
その他未払費用	266,911	
(C) 純資産総額(A-B)	283,820,760	
元本	202,758,771	
次期繰越損益金	81,061,989	
(D) 受益権総口数	202,758,771口	
1万口当たり基準価額(C/D)	13,998円	

(注) 当ファンドの期首元本額は214,798,278円、期中追加設定元本額は39,910,987円、期中一部解約元本額は51,950,494円です。

(注) 1口当たり純資産額は1.3998円です。

○損益の状況（2023年7月19日～2024年7月17日）

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	21,564,969	
受取配当金	21,563,327	
受取利息	2,740	
支払利息	△ 1,098	
(B) 有価証券売買損益	6,201,721	
売買益	6,955,140	
売買損	△ 753,419	
(C) 信託報酬等	△ 3,395,369	
(D) 当期損益金(A+B+C)	24,371,321	
(E) 前期繰越損益金	49,951,782	
(F) 追加信託差損益金	6,738,886	
(配当等相当額)	(77,302,854)	
(売買損益相当額)	(△ 70,563,968)	
(G) 計(D+E+F)	81,061,989	
(H) 収益分配金	0	
次期繰越損益金(G+H)	81,061,989	
追加信託差損益金	6,738,886	
(配当等相当額)	(77,302,854)	
(売買損益相当額)	(△ 70,563,968)	
分配準備積立金	115,533,199	
繰越損益金	△ 41,210,096	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程（2023年7月19日～2024年7月17日）は以下の通りです。

項 目	2023年7月19日～ 2024年7月17日
a. 配当等収益(経費控除後)	18,928,132円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	77,302,854円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	96,605,067円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	192,836,053円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	9,510円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2023年7月19日から2024年7月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

種類・項目	ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA
	ルクセンブルグ籍円建外国投資信託
運用の基本方針	
基本方針	利子収入などを中心とする安定的な信託財産の成長をめざします。
主な投資対象	ソブリン債券(国債、州政府債、政府保証債、国際機関債など)を主要投資対象とします。
投資方針	<ul style="list-style-type: none"> 国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えると見られる国や地域の通貨建てのソブリン債券(国債、州政府債、政府保証債、国際機関債など)を主要投資対象とします。 通貨選定にあたっては、金利水準を重視し、経済情勢、政治の安定性、市場の流動性なども考慮します。 原則として、買付時においてBBB(Baa)格相当以上の格付が付与されているソブリン債券に投資します。ただし、債務履行能力が高いと運用会社が判断した場合は、BB(Ba)格相当以下の国や地域のソブリン債券に投資する場合があります。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行ないません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> 株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
収益分配	原則として、毎月12日(休日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
ファンドに係る費用	
信託報酬など	純資産総額に対し年率0.31%以内(国内における消費税等相当額はかかりません。)
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用など	事務管理費用、資産の保管費用、有価証券売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、法律顧問費用、監査費用、信託財産に関する租税など。
その他	
投資顧問会社	日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッド
管理会社	日興AMルクセンブルグ・エス・エイ
信託期間	無期限
決算日	原則として、毎年2月末日

◆投資明細表

ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA

2024年2月29日現在

数量/ 額面	銘柄	通貨	(単位：日本円) 市場価格	純資産に占める 割合 (%)
公式な証券取引所に上場している譲渡可能証券 債券およびその他の債務証券				
オーストラリア				
2,600,000.00	AUSTRALIAN GOVT. 1% 20-21/11/2031	AUD	202,784,299.00	3.30
3,505,000.00	AUSTRALIAN GOVT. 1.75% 20-21/06/2051	AUD	194,244,059.00	3.16
6,070,000.00	NEW S WALES TREA 4.25% 23-20/02/2036	AUD	553,592,700.00	9.02
2,000,000.00	QUEENSLAND TREAS 4.5% 23-09/03/2033	AUD	193,833,295.00	3.16
			1,144,454,353.00	18.64
インドネシア				
40,000,000,000.00	INDONESIA GOVT 7.375% 17-15/05/2048	IDR	402,176,582.00	6.55
67,500,000,000.00	INDONESIA GOVT 7.5% 17-15/05/2038	IDR	682,877,361.00	11.13
37,500,000,000.00	INDONESIA GOVT 8.25% 15-15/05/2036	IDR	401,455,375.00	6.54
			1,486,509,318.00	24.22
コートジボワール				
670,000.00	AFRICAN DEV BANK 4% 14-10/01/2025	AUD	64,987,117.00	1.06
			64,987,117.00	1.06
ルクセンブルク				
1,452,000.00	EUROPEAN INVT BK 3.3% 17-03/02/2028	AUD	136,384,078.00	2.22
			136,384,078.00	2.22
メキシコ				
50,700,000.00	MEXICAN BONOS 10%06-20/11/2036	MXN	473,650,805.00	7.72
123,000,000.00	MEXICAN BONOS 7.75% 11-29/05/2031	MXN	999,576,765.00	16.29
24,000,000.00	MEXICAN BONOS 8.5% 09-18/11/2038	MXN	198,423,817.00	3.23
31,500,000.00	MEXICAN BONOS 8.5% 09-31/05/2029	MXN	269,017,088.00	4.38
			1,940,668,475.00	31.62
韓国				
15,000,000,000.00	EXP-IMP BK KOREA 8% 19-15/05/2024	IDR	143,060,331.00	2.33
			143,060,331.00	2.33
国際機関				
18,000,000,000.00	EURO BK RECON&DV 5.2% 21-28/05/2024	IDR	170,695,233.00	2.78
7,500,000,000.00	EURO BK RECON&DV 5.6% 18-30/01/2025	IDR	70,765,863.00	1.15
			241,461,096.00	3.93
米国				
4,000,000.00	INT BK RECON&DEV 0% 11-16/11/2026	AUD	346,938,678.00	5.65
23,300,000.00	INT BK RECON&DEV 0% 18-25/05/2033	MXN	91,277,240.00	1.49
8,300,000.00	INT BK RECON&DEV 0.5% 12-13/08/2032	MXN	35,230,116.00	0.57
2,000,000.00	INT BK RECON&DEV 4.2% 23-21/04/2033	AUD	186,446,308.00	3.04
20,100,000,000.00	INT BK RECON&DEV 6.25% 23-12/01/2028	IDR	191,611,196.00	3.12
2,141,000.00	INTERAMER DEV BK 7.5% 07-05/12/2024	MXN	18,279,740.00	0.30
			869,783,278.00	14.17
			6,027,308,046.00	98.19
	有価証券ポートフォリオ合計		6,027,308,046.00	98.19

純資産の要約

	純資産に 占める割合 (%)
有価証券ポートフォリオ合計	6,027,308,046.00 98.19
銀行預金	22,932,454.00 0.37
その他の資産および負債	88,459,342.00 1.44
純資産合計	6,138,699,842.00 100.00

ポートフォリオの内訳

セクター配分	ポートフォリオに 占める割合 (%)	純資産に 占める割合 (%)
政府	78.24	76.81
国際機関	21.76	21.38
	100.00	98.19

国別配分	ポートフォリオに 占める割合 (%)	純資産に 占める割合 (%)
メキシコ	32.23	31.62
インドネシア	24.66	24.22
オーストラリア	18.98	18.64
米国	14.42	14.17
国際機関	4.00	3.93
韓国	2.37	2.33
ルクセンブルク	2.26	2.22
コートジボワール	1.08	1.06
	100.00	98.19

◆損益計算書および純資産変動計算書

ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA

2024年2月29日に
終了した会計年度
(単位：日本円)

収益		
債券利息	JPY	380,515,894
銀行預金利息		3,724,862
その他の収益		2,650,478
収益合計		386,891,234
費用		
運用報酬		16,388,739
預託報酬		1,140,089
名義書換代理人報酬		4,954,745
管理報酬		2,929,139
専門家報酬		4,381,026
年次税		633,981
銀行借入利息		165,405
印刷費用		36,331
その他費用		2,129,529
費用合計		32,758,984
投資純利益（損失）		354,132,250
実現純（損）益内訳：		
投資		248,893,097
外貨換算		2,202,079
当期実現純利益（損失）		605,227,426
評価（損）益の純変動額内訳：		
投資		442,895,458
運用による純資産の純増加（減少）額		1,048,122,884
受益証券の申込に係る受取代金		236,205,118
受益証券の買戻に係る支払純額		(926,925,979)
収益分配金		(566,929,678)
期首純資産		6,348,227,497
期末純資産		6,138,699,842

マネー・アカウント・マザーファンド

運用報告書

第14期（決算日 2023年10月12日）
（2022年10月13日～2023年10月12日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月30日から原則無期限です。
運用方針	公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要運用対象	わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資は行ないません。

ファンド概要

主として、わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして運用を行ないます。ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率			
10期(2019年10月15日)	円		%		%	百万円
	10,028		△0.0		—	586
11期(2020年10月12日)	10,025		△0.0		—	888
12期(2021年10月12日)	10,023		△0.0		—	1,125
13期(2022年10月12日)	10,022		△0.0		—	560
14期(2023年10月12日)	10,018		△0.0		—	458

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	
		騰 落	率
(期 首) 2022年10月12日	円		%
	10,022		—
10月末	10,022		0.0
11月末	10,021		△0.0
12月末	10,020		△0.0
2023年1月末	10,020		△0.0
2月末	10,020		△0.0
3月末	10,020		△0.0
4月末	10,020		△0.0
5月末	10,019		△0.0
6月末	10,019		△0.0
7月末	10,019		△0.0
8月末	10,018		△0.0
9月末	10,018		△0.0
(期 末) 2023年10月12日	10,018		△0.0

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2022年10月13日～2023年10月12日)

基準価額の推移

期間の初め10,022円の基準価額は、期間末に10,018円となり、騰落率は△0.0%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値下がり要因>

- ・無担保コール翌日物金利がマイナス圏で推移したこと。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.03%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.16%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.21%近辺で期間末を迎えました。

ポートフォリオ

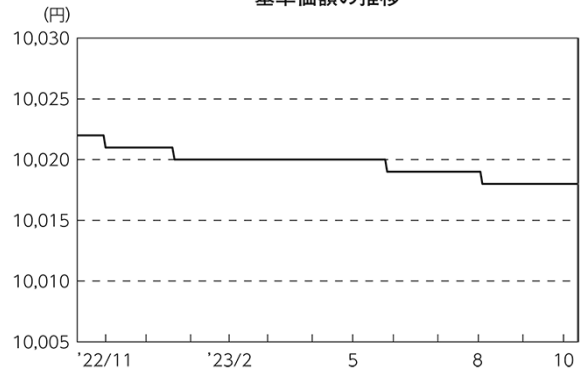
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

○今後の運用方針

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

基準価額の推移



期首	期中高値	期中安値	期末
2022/10/12	2022/10/13	2023/08/03	2023/10/12
10,022円	10,022円	10,018円	10,018円

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	0	0.000	
期中の平均基準価額は、10,019円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

○ 利害関係人との取引状況等

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○ 組入資産の明細

(2023年10月12日現在)

2023年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2023年10月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	460,554	100.0
投資信託財産総額	460,554	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年10月12日現在)

項	目	当	期	末
				円
(A)	資産			460,554,227
	コール・ローン等			460,554,227
(B)	負債			2,542,153
	未払解約金			2,541,999
	未払利息			154
(C)	純資産総額(A-B)			458,012,074
	元本			457,205,640
	次期繰越損益金			806,434
(D)	受益権総口数			457,205,640口
	1万円当たり基準価額(C/D)			10,018円

(注) 当ファンドの期首元本額は559,411,728円、期中追加設定元本額は65,398,257円、期中一部解約元本額は167,604,345円です。

(注) 2023年10月12日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・グローバル・プロスペクティブ・ファンド	237,562,073円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース> (毎月分配型)	1,008,393円
・中華圏株式ファンド (毎月分配型)	61,601,208円	・インデックスファンドMLP (1年決算型)	873,815円
・グローバルC o C o債ファンド 円ヘッジコース	39,403,892円	・S M B C ・日興 世銀債ファンド	817,802円
・グローバルC o C o債ファンド ヘッジなしコース	16,912,508円	・エマーゼン・プラス・円戦略コース	690,677円
・エマーゼン・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネーベースファンド)	12,476,397円	・欧州社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	553,224円
・エマーゼン・プラス(マネーベースファンド)	9,883,036円	・D C世界株式・厳選投資ファンド	472,243円
・アジア社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	9,797,265円	・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジあり	421,031円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース> (毎月分配型)	9,153,672円	・世界標準債券ファンド (1年決算型)	260,591円
・インデックスファンドMLP (毎月分配型)	7,091,485円	・欧州社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	198,309円
・アジア・ヘルスケア株式ファンド	6,597,366円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース> (毎月分配型)	117,667円
・エマーゼン・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース	6,192,802円	・上場インデックスファンド海外新興国株式 (MSCIエマーゼン)	99,902円
・世界標準債券ファンド	6,082,942円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジあり)	48,754円
・ビッグデータ新興国小型株ファンド (1年決算型)	5,821,782円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジなし)	22,949円
・エマーゼン・プラス・成長戦略コース	3,018,587円	・上場インデックスファンド海外先進国株式 (MSCI-KOKUSAI)	19,997円
・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジなし	3,000,903円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500)	19,983円
・アジアリートファンド (毎月分配型)	2,676,160円	・上場インデックスファンド豪州リート (S&P/ASX200 A-REIT)	19,977円
・アジア社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	2,538,599円	・上場インデックスファンド新興国債券	9,981円
・グローバル・ダイナミックヘッジα	2,517,567円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジあり)	9,979円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース> (毎月分配型)	1,963,920円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジなし)	9,979円
・インド株式フォーカス (奇数月分配型)	1,797,541円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジなし)	9,978円
・グローバル株式トップフォーカス	1,696,908円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジあり)	9,978円
・グリーン世銀債ファンド	1,451,090円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500) 為替ヘッジあり	9,967円
・アジアREITオープン (毎月分配型)	1,224,190円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジなし)	9,958円
・日興マナー・アカウント・ファンド	1,018,655円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジあり)	9,958円

(注) 1口当たり純資産額は1,0018円です。

○損益の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項	目	当	期
			円
(A)	配当等収益	△	198,410
	受取利息		939
	支払利息	△	199,349
(B)	保管費用等	△	102
(C)	当期損益金(A+B)	△	198,512
(D)	前期繰越損益金		1,218,941
(E)	追加信託差損益金		129,627
(F)	解約差損益金	△	343,622
(G)	計(C+D+E+F)		806,434
	次期繰越損益金(G)		806,434

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2022年10月13日から2023年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化するべく、2023年7月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表、第16条、第17条、第18条)